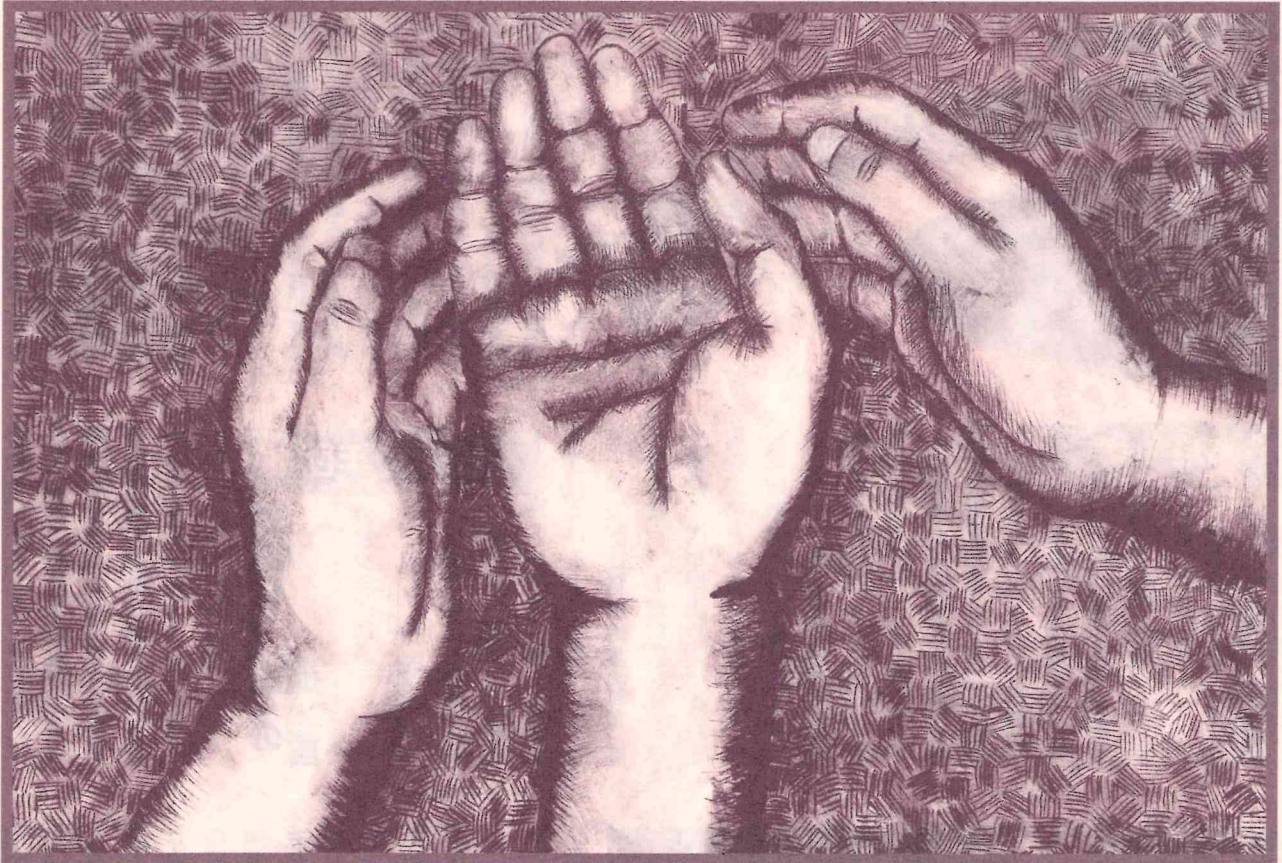


新発田青少年育成市民会議だより

はばたき

21世紀も市民みんなで手をたずさえて



川東中学校三年 佐野 真理亜



友 達

松浦小学校 6年

肥 田 野 幸 恵

友達は一人より
たくさんいるほうがいい
たすけあえるし
たくさん笑える
おもしろい人も
たのしい人も
ちよつとこわい人も
みんな友達
友達はやっぱり仲良し
けんかしたって
すぐになかなあり
たくさん友達にかこまれて
たくさんけんかして
それで深める友達のきずな
ぜったいになくってはならない
大切な友達

発行 新発田青少年育成市民会議
事務局 新発田市青少年健全育成センター
住所 新発田市緑町二丁目六番三十六号
電話 (〇二五四) 二六一〇八九七

自治会

週五日制での自治会の役割

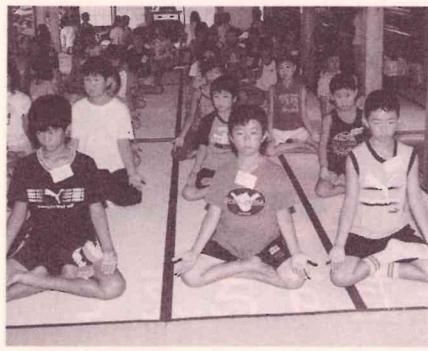
自治会連合会副会長

齋藤修三

学校週五日制完全実

施に向けて、地域自治会が小・中学生、高校生の課外余暇活動に、学校、生徒、家庭とどのようなかわりを持ち、これを善導していくか、それによって健全育成と言う指標に向かって四者が一体となつてそれを達成する事が出来るかが焦眉の急である。

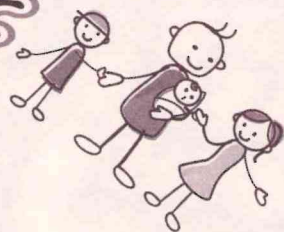
前項の目的達成のため、市自治連合会の活動としては、各自治会単位での生徒の心のケア、社会規範の教導、地域の伝統行事への参加、郷土の歴史探訪、地域ボランティア活動参加等々が主となる。一例をあげるならば、心のケアとしては、地域の



寺に合宿し、子供座禅会を体験する（夏休みに）。社会規範の教導としては、登下校時の挨拶、声掛け（おはよう」「こんにちは」「いつてらっしゃい」）がある。

また、地域伝統行事の参加では、城下町新発田ふるさとまつりへの積極的参加等々が考えられる。

地域自治会としては、青少年の健全育成の責任は、あくまでも家庭・学校にあると認識している。この補完するのが地域



めぐる取り組み 完全実施に向けて

時間は、今まで学校が
めていました。
会の比重が重くなります。
と、に、家庭・地域の果たす役割が重要です。
わり、心豊かで自主性に富む
よいか、全ての大人が
ない緊急課題です。

自治会である。従って自治会は、行政・関連団体と連携しつつ、控えめに、しかしニーズに合わせ、積極的に取り組んでいきたい。

健民少年団

対応についての提言

健民少年団団長

小山 志賀之助

学校週五日制完全実施に伴う週休二日制については、前々より論

議されているようであった。しかし、未だに結論的な方向づけがないようである。

平成十四年度より実施された場合、子ども達は全員スポーツ少年団や目的少年団に入るとは限らない。多くは学習塾や目的なしの子どもが多くなるのではない。

発育盛りの大切な成長期、無意味な生活環境は許されない。

これらについては、行政も、学校も、地域も、家庭も、みんな力を合わせて受け皿づくりを真剣に考えなければならぬのではない。

一方、保護者や子ども達自身の考えはどうであるか。アンケート調査をして、それを参考に
対応策を考えたらどうか。

幸い、新発田市には六つの少年団が活動している。それぞれの各団が親子を対象にした説明会を学校で開いて団員募集したらどうか。

一方、目的のない子ども達は、地域子供会の指導者や、学校の先生、地域指導者が組織を作り地域活動をしてもらうことである。もちろん低学年も参加出来る地域クラブ体制である。

以上のようなことを参考に、我々少年団指導者を囲み、今後の週休二日制について検討してみたらどうか。



民生委員・児童委員

PTAを中心とした 対策検討が必要

主任児童委員児童部長

武者 敏夫

「来春から土日連休になるが、君達どうす

る？」「僕は塾もあるし、野球もやりたいからいいよ。」「僕は昼寝やファミコンができて賛成。」「学校で友達と遊ぶ日が減るからイヤ。」「子ども達の反応はさまざま。大人も目的のない休日増加に不安がいつぱい。学校週五日制の目的は何だろう。」「両親や家族とふれ合う大切な時間ですよ。」「とは言っても、公務員以外は土日祝日の休みもままならない親が多いのが現実。しかし、学校環境の変化を認め、毎週二日の休日をいかに子ども達の為に活用するかが課題なのである。

近頃子ども達の学力低下が問題視され、更に親の不安に拍車がかかる。いきおい学習塾や家庭教師の勧誘がエスカレートするだろう。」「お宅のお子さんは高校進学大丈夫ですか。」「大きなお世話だと言いたいが、意外に親達はこの言葉に弱い。

ともあれ時間がない。早急にPTAを中心に対策検討の必要がある。子ども達に課外活動の目的を与えてほしい。スポーツ、自由研究、組織的な体験等を通じて、人間形成に役立つ時間にしたいものだ。

「先生、宿題を沢山出してください。」という叫びが聞こえてくる様な気はするが。

小学校

課題を
抱えながら

二葉小学校校長

長谷川 徹

(1)子どもたちにゆとりを

(2)生きる力などの新しい学力を

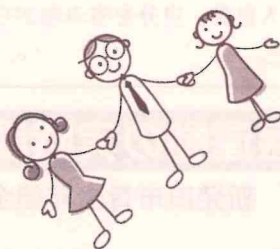
(3)家庭・地域の教育力の回復を
(4)自然・社会体験の機会増を

二十一世紀の日本の教育について出された中教審答申(平成八年)の主な内容です。その答申に盛り込まれた学校の完全五日制実施もあと半年後にせまりました。その教育課程の構成は、従来の教科、道徳、特別活動のほかに総合的な学習の時間が加わりました。

総合的な学習については、年間の活動時数が決められているだけで、内容や計画は学校に任されています。この二年間、教科の移行措置期間に、各校とも教材の開発・研究、指導の計画づくりと試行を行ってきました。しかし十分とは言えず試行錯誤の連続です。これを組織的、計画的、継続的なものにするためには、これからも教師たちの相当の労力を必要とします。一方、従来の教科の内容が約三割減ったことから、学力低下問題

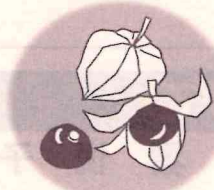
2002年を 学校週五日制

子どもたちの生活時
大きな比重を占
来年度から家庭・地域社
次代を担う青少年を健やかに育成する
どのように子どもたちと関
青少年を育成していけば
考えなければなら



も取り沙汰されています。

教師は、基礎学力の確かな定着・向上を図りながら、自ら考え解決する能力も育てなければなりません。不登校やいじめといった問題も依然として残されています。学校は、五日間では処理しきれない問題を抱えながら完全実施を迎えます。



中学校

五日制、
自由に任せる
ことに意義

七葉中学校校長

駒澤 一彦

学校週五日制が来年度より完全実施されます。賛否はいろいろありました。確かに課題は残っています。厳しくなっている雇用環境の中で、土曜日にも休めない保護者のことなど。

しかし、部分的実施から今日までの積み重ねがあるのです。意義をとらえ直し、無用に不安を増幅せず、制度が子どもの益となるよう、今後の詰めを確かなものにするのが大人の務めではないでしょうか。

五日制で大切なこと、それは土曜日の生徒の生活は、基本的に生徒と家庭の自由に任せられているということの確認です。それは新しい学校教育の求める、自ら学ぶ意欲と主体的に考え判断し行動できる生徒を目指すうえで、家庭や地域社会においても、その発展の場として、またそれを補足する場として、生徒達が主体的に使う時間を確保する必要があります。

このことを見失い、子どもの受皿ばかりに目を奪われるな

ら、今後土曜日が創造する豊かさを失わせるでしょう。今こそ親子が互いに知恵を働かせ、わが家の休日のあり方を作り上げなければならぬのです。子どもが新しい時間的な環境で、自ら望ましい人間形成を果たして行くことを願うものです。

市 P 連

総合的な
学習で増す
PTAの役割

PTA連合会会長

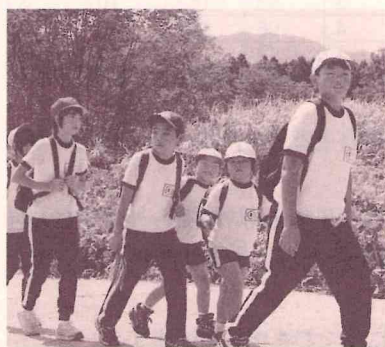
齋藤 又雄

平成十四年度からいよいよ新しい学習要領の完全実施となり、教育は大きな転換期にさしかかっています。

「ゆとり」や「基礎・基本の確実な定着」が重視される一方、教育内容が三割程減り、授業時間も大幅に削減される。そのために、子どもたちの学力低下を危惧する意見も多くあります。学校においては「完全週五日制」の下で変化の激しいこれからの社会を「生きる力」を育むことが求められています。

そんな中で子どもたちが自ら学ぶ力と自ら考える力を培うために「総合的な学習の時間」が

新設されます。我が校でも「かがやきタイム」と名付け教育推進委員会を設置し、地域の豊富な自然、すばらしい歴史を人々を通して学び、地域を知る学習を中心に検討をすすめています。これには、学校だけでなく何よりも家庭や地域住民の協力が今まで以上に必要となってきます。とりわけPTAの役割はますます大きなものになってくると思います。子どもたちの心を知り、どのようにふれあい、どのように接してあげたら良いのか、人と自然を通して子どもたちの「生きる勇氣」・「生きる力」そして、そのためには何をしたら良いのか「子どもたち自身で見つける力」を培ってあげなければなりません。限りない可能性のある子どもたちの将来のために学校・地域・PTAが一体となつて努力をする考えです。



青少年健全育成県民大会に参加して

新発田市少年相談員 鈴木 敬子

「育てよう心豊かな子どもたち、見つめ直そう大人たち」のテーマのもと、7月17日加茂文化会館で青少年健全育成県民大会が開催されました。参加者約700人。青少年健全育成に功労のあった方々、団体の表彰、実践事例発表の後、ユニークな地域づくりアドバイザー 森山一理氏の記念講演「親がかわれば子どももかわる、今こそ発想の転換を」と題した元気の出るお話をお聞かせいただきました。

21世紀を担う青少年が人として健やかに成長することは私達の大きな願いです。しかし近年、自立性、社会性に乏しい青少年が増加し、非行犯罪が相次いでいます。そんな今、私達は子ども達に何をすればよいのでしょうか。何かあった時、子ども達が「家へ帰りたい」と思う安らぎに満ちた明るい家庭づくりがまず第一番。もう一つは子ども達と私達大人がしっかりと向き合ってお互いを尊重し合える出会いの場づくり（地域社会参加）です。これはとても大きな意味をもつことだと私は思うのです。

大人と子どもが一緒に何かをする。「すごいなあ」「やるなあ」「もう一度考えてごらん」「できた、よかったね」の世界です。地域の育人力とでもいいでしょうか。大人自身、自分を省みながら子ども、若者達と手をたずさえ、共に成長していかなければという思いを深くした大会参加でした。

青少年育成国民運動の実践調査研究事業を受けて

新発田市青少年健全育成センター所長 南 雲 悦子

「伸びよう 伸ばそう 青少年」を合言葉にスタートした青少年育成国民運動は、今年で35周年を迎えました。青少年育成国民会議→都道府県民会議→市町村民会議へと組織が繋がって、地域に根ざした青少年育成体制が整い、これまで諸活動が展開されてきました。近年、青少年の問題状況が複雑化する中で地域の役割がクローズアップされているところです。

新発田青少年育成市民会議は、今年度「青少年国民運動実践調査研究事業」の指定を受けました。この事業は、国民会議が内閣府の委嘱を受け、全国10ヶ所の市町村民会議が実施するものです。今日の青少年状況に適時・適切に対応しながら青少年健全育成の実効を挙げ、組織の活性化を図るとともに、地域の幅広い団体、機関、各層の人々と連携した活動展開を目指します。

新発田青少年育成市民会議では、「子どもを健やかに育てるために地域育成協議会はどうあったらよいか」をメインテーマに、子どもの主体性を生かした活動・世代間の交流・学校週五日制の視点から実践、調査、研究に取り組めます。実践地区として住吉小学校区青少年育成協議会、佐々木地区青少年健全育成会議、東豊学区青少年育成協議会、猿橋小学校区青少年育成協議会の皆様にはお世話になりますが、よろしくご協力をお願い申し上げます。

青少年を取り巻く社会環境の実態調査の実施結果について

新発田市青少年健全育成センター 寺 尾 恭子

◎調査の概要

青少年を取り巻く社会環境の実態を把握し、青少年を非行から守り、健全な育成を図るため、『青少年の非行問題に取り組む全国強調月間』の7月に新潟県が実施主体となり、タバコ・酒類・有害図書類等、表に示された項目について、社会環境の調査を行った。

区分	コンビニエンスストア					書店			各種店舗				自動販売機設置数		図書・ビデオ類自動販売機等		
	総数	酒	タバコ	有害図書有	成人向ビデオ	総数	有害図書有	成人向ビデオ	ゲーム場	エアーガン等取り扱い店	おとなのおもちゃ	カラオケ店	酒	タバコ	販売	貸出し	
13年	21	7	17	10	0	18	9	3	8	6	1	3	53	162	10	3	
12年	15	3	9	6	0	18	13	3	6	6	0	4	106	156	10	0	
増減数	6	4	8	4	0	0	-4	0	2	0	1	-1	-53	6	0	3	

※ 数字は期間内に把握したものであり、実数とは差異を生じる場合がある。

◎調査結果から

酒類自販機は平成7年、「全国小売酒販組合中央会」の総会で、12年の5月末日を期限に自主撤去の決議が行われており、県内での撤去状況は地域により異なるが、当市では5割減となった。

コンビニエンスストアは6件増となっており、需要が多いことがわかるが、7割の店舗が「午後11時以降も青少年が入店している」と答えている。青少年の健全育成を図るためには行政や学校はもとより、地域社会並びに事業所関係者が一体となって考えていくことが不可欠であると考えます。

本調査並びに『はぐくみ環境プロジェクト』営業実態調査にご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

すばらしかった 絵合のアトラクション

五月二十六日（土）に行われた新発田青少年育成市民会議総会記念アトラクションは、本丸中学校吹奏楽部二、三年生三十三名による演奏であった。

本丸中学校の吹奏楽部は、長い歴史と伝統があり、平成になってからは、平成元年にクラリネット四重奏で関東アンサンブルコンテスト銀賞受賞、平成六年には吹奏楽コンクールで関東大会金賞受賞、平成十年度吹奏楽コンクールで西関東大会に出場、昨年の県アンサンブルコンテストでは木管八重奏で金賞、金管打楽器八重奏でも金賞受賞という輝かしい成績をおさめている。

当日の演奏曲目は、

◆吹奏楽の為の序曲

◆風紋

◆イン・ザ・ムード

◆剣の舞

◆平和への行列

◆明日があるさ 等。

その演奏は、雄渾、壮大で迫力があり、木管や金管の落着いた響き、そしてみなぎる緊張感と力強い盛り上がりで聴く人に感動を与え、いつまでも拍手が鳴りやまない、すばらしいアトラクションであった。



楽しかったサマースクール

児童センターでは、毎年夏休み中に遠隔地の子ども達を対象に、サマースクールを実施しています。

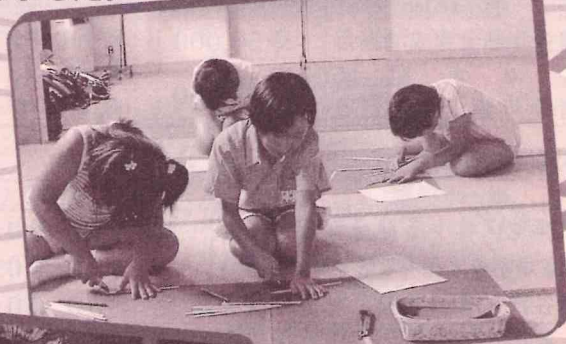
今年は7月25日から8月9日までの期間中に、五十公野・松浦・米倉・赤谷・川東・車野・竹俣・菅谷・七葉・佐々木小学校の児童284名が参加しました。

午前中は講師の先生をお呼びして「わりばし鉄砲」を作り、まと当てゲームなどを楽しみました。昼には持参したお弁当やお菓子を皆で一緒にわいわいといただきました。

午後からは、中学生・高校生のボランティアさんも加わり、ドッチボール・パソコン・竹馬・一輪車などをして有意義な一日を過ごしました。



講師の高沢先生と
ハイチース!!



けっこう難しいね。

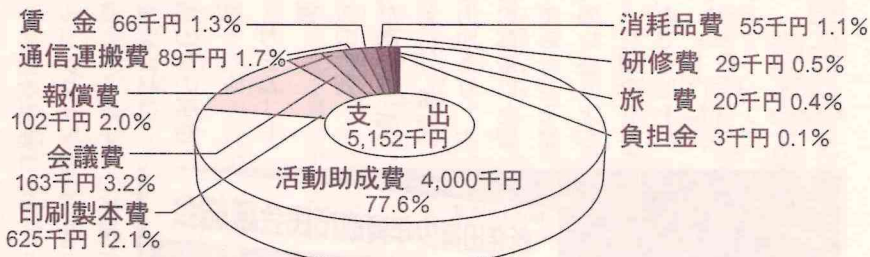
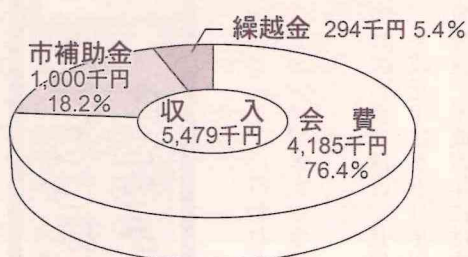


私の作った
わりばし鉄砲♡

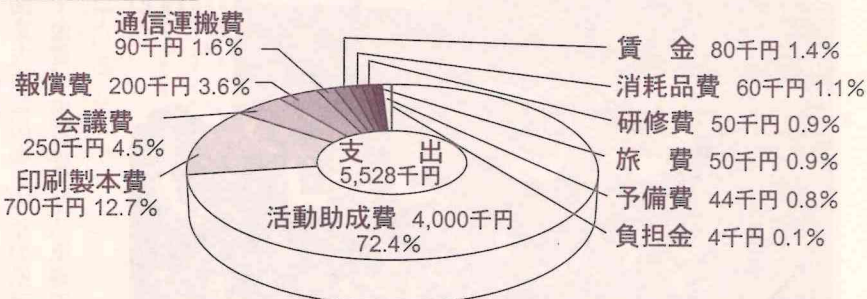
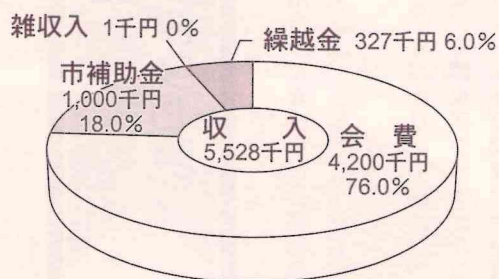
13年度総会を終えて (H13.5.26)

各世帯より会費をいただきました。ご協力ありがとうございました。

12年度決算報告



13年度予算額



13年度活動助成費の400万円は下記の組織団体に助成されました。

14地区青少年育成組織

組織名	助成金額 (円)
外ヶ輪小学校区青少年育成連絡会	360,000
御免町・一中校区健全育成会議	307,000
猿橋小学校区青少年健全育成協議会	356,000
二葉地区青少年育成協議会	236,000
住吉小学校区青少年育成協議会	256,000
松浦地区青少年健全育成協議会	※50,000
佐々木地区青少年健全育成会議	155,000

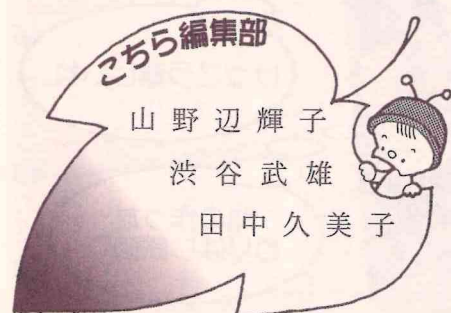
青少年育成団体

団体名	助成金額 (円)
市子ども会連合会	500,000
市健民少年団	105,000
市スポーツ少年団	120,000
ボーイスカウト	44,000
赤谷地区緑の少年団	33,000
車野地区緑の少年団	39,000
市少年団体連絡協議会	20,000
市少年補導委員会	45,000

特別活動助成金

組織名	助成金額 (円)
松浦地区青少年健全育成協議会	50,000
米倉小学校区青少年健全育成協議会	50,000
菅谷地区青少年健全育成協議会	50,000

今年度は、最終年度で左記の3地区の青少年組織が対象となります。



おわりに

さわやかな秋風が、厳しかった夏の暑さを忘れさせてくれるこの頃です。そんな気候とは裏腹に世間では暗いニュースが続発しているようです。子ども達に善悪の区別を、思いやりを、話しているおとな達の不祥事や虐待は、子どもの目にどう映っているのでしょうか。美食のみを続けられずにその良し悪しを知ることはできないと言います。子ども達には、社会のさまざまな現実を彼等なりに受容した上で、生きていく上で何が大切なのかを学習して欲しいものです。

週五日制完全実施も目前です。青少年にとって今、何が大切なのかを私たちは改めて考えてみる時だと思えます。

文責 山野辺